

ソフトウェア危機と プログラミング パラダイム

“わかりやすさ”の追求

中所武司・著

啓学出版

The background of the cover features a series of horizontal lines. Overlaid on these lines is an abstract graphic design consisting of several thick, diagonal lines in various colors (red, blue, yellow, purple, green) and numerous colorful splatters and blotches in shades of pink, blue, green, and yellow, creating a dynamic and artistic composition.

今、ソフトウェアの作り方が大きく変わろうとしている。規模、量、質の問題に関するソフトウェア危機を克服するために、プログラムのわかりやすさ優先へとパラダイムシフトが起きている。

本書は、第1編で、現在の高度情報化社会のソフトウェア技術動向とソフトウェア危機回避のシナリオを説明している。

第2編では、実用性の高いプログラミング技法（パラダイム）のキーテクノロジーについて例題を中心にわかりやすく説明している。最近話題のオブジェクト指向や人工知能についても具体的な例を提示している。

第3編では、分散コンピューティングのトレンドに呼応したエンドユーザコンピューティング技術を中心に今後のソフトウェア技術の展望を述べている。

■目次

第1編 ソフトウェア危機とパラダイム転換

- 第1章 ソフトウェアの光と影
- 第2章 ソフトウェア危機の歴史
- 第3章 危機回避のシナリオ
- 第4章 パラダイム転換

第2編 プログラミングパラダイム

- 第5章 構造化プログラミング
- 第6章 論理型プログラミング
- 第7章 関数型プログラミング
- 第8章 オブジェクト指向プログラミング
- 第9章 人工知能
- 第10章 マルチパラダイム

第3編 ソフトウェア展望

- 第11章 エンドユーザコンピューティング
- 第12章 パラダイム雑感